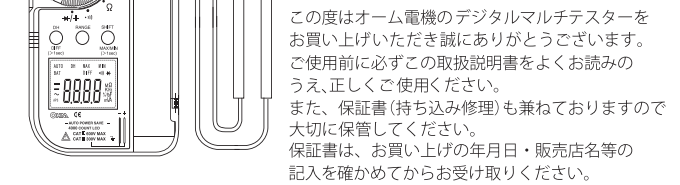


デジタルマルチテスター

型番：TDB-401B

品番：06-5408
保証書付 取扱説明書



安全な測定をするために!

感電事故を防止して安全な測定をするために、説明書をよく読んでから本製品を使用してください。特に本体および説明書の中の△記号の部分は重要です。

⚠	この記号はIEC規格およびISO規格に定められている記号で、 説明書をよく読んでから本製品をご使用ください ということを示しています。
⚠ 警告	この表示はその内容を守らずに誤った取り扱いをすると、 人が死亡または重傷を負う可能性がある ことを示しています。
⚠ 注意	この表示はその内容を守らずに誤った取り扱いをすると、 人が負傷したり物的損害を発生させる可能性がある ことを示しています。

⚠ 警告

強電回路の測定は非常に危険です。強電回路（電路）には、しばしば高いサージ電圧が重畳して、これが爆発的短絡の誘因となります。危険な回路の電圧測定では、クランプメーターは手にもって測定しないでください。また、身体のいかなる部分も回路に接触しないようご注意ください。

1. 包装内容の確認

本製品は下記の内容で構成されています。万一、不具合や付属品の欠品などがありましたら、販売店までご連絡ください。

- | | |
|--------------------|----------|
| 1. デジタルテスター | 1台 |
| 2. 3V CR2032 ボタン電池 | 1個(本体内蔵) |
| 3. 保証書付取扱説明書 | 1部 |

2. 仕様

- ### 2-1. 一般仕様
- 液晶画面
 - 数字表示：3 1/2 桁液晶表示、最大3999、文字高14mm
 - 単位及び：mV、V、Hz、%、Ω、kΩ、MΩ、nF、μF、 \rightarrow 、 \rightarrow 、DIFF、MAX、サイン MIN、BAT、DH、OL、AUTO、APS、 \equiv 、 \sim 、 \leftarrow 及び少数点
 - 動作原理： Σ △変換方式
 - レンジ切換：オート/マニュアルレンジ（自動/手動）
 - オーバーレンジ表示：“OL”サイン点灯（ただし、DC/AC 600Vは除く）
 - 極性表示：自動(“−”表示のみ点灯)
 - 電池消耗表示：約2.4V以下で“BAT”サイン表示
 - サンプリング速度：3回/秒
 - ディスプレイホールド/偏差測定(ゼロ調整)
 - DH/DIFFキーを0.5秒以下押す→ディスプレイホールド
 - DH/DIFFキーを1秒以上押す→偏差測定
 - 静電容量測定時にゼロを表示しない場合 → ゼロ調整
 - 最大値/最小値： \equiv V、 \sim V、Ωの時に、MAX/MINキーを1秒以上押すと、最大値と最小値が測定できます。
 - 導通検査：液晶画面に \rightarrow サイン及びブザー音
 - 約60Ω以下でブザー音
 - 開放電圧：約0.45V

- 過負荷保護
 - V：最大900V DC/AC(1分間)
(ただし、400mVレンジは 600V RMS)
 - Ω・ \rightarrow ・ \rightarrow ：最大300V DC/AC rms(1分間)
- 耐電圧：AC3.7kV (50Hz) 1分間(入力端子とケース間)
- 使用温・湿度：0℃～40℃、80%RH以下(結露のないこと)
- 保存温・湿度：-20℃～60℃、80%RH以下(結露のないこと)
- 温度係数：23℃±5℃の時の確度×0.1/℃
- 電源：3V CR2032 ボタン電池1個
- 消費電流：約2mA
- 連続使用時間：70時間以上(直流電圧レンジ0mV入力時)
- オートパワーオフ：約15分後に自動的に電源オフ
- 安全基準：CEマーク認証。IEC-61010-1、CAT II 600V、CAT III 300V、及びEMCテスト合格
- 寸法・重量：(約)幅118×高さ78×奥行16mm、約110g(電池含む)
- 付属品：3V CR2032 ボタン電池1個(内蔵)、保証書付取扱説明書
- 別売付属品：ワニグチクリップ(06-5413)
※校正に関しては、受けつけておりません。

2-2. 測定仕様(23℃±5℃、80%RH以下、ただし結露のないこと)

1. 直流電圧 (≒V)				
レンジ	測定精度	分解力	入力抵抗	最大許容値
400 mV	±0.5%rdg±3dgt	100 μV	≥100MΩ	600V DC
4 V		1 mV	≒11MΩ	
40 V		10 mV		
400 V		100 mV	≒10MΩ	
600 V	±1.0%rdg±3dgt	1 V		900V rms 1分間

2. 交流電圧 (～V)				
レンジ	測定精度	分解力	入力抵抗	最大許容値
4 V	±1.5%rdg±5dgt	1 mV	≒11MΩ	600V rms
40 V		10 mV		
400 V		100 mV	≒10MΩ	
600 V		1 V		
				900V rms 1分間

3. 抵抗測定 (Ω)					
レンジ	測定精度	分解力	試験電流	開放電圧	過負荷保護
400 Ω	±1.5%rdg±4dgt	0.1 Ω	≤0.2mA	約0.44V	300V rms 1分間
4 kΩ		1 Ω	≤50 μA		
40 kΩ		10 Ω	≤5 μA		
400 kΩ		100 Ω	≤0.5 μA		
4 MΩ	±3.0%rdg±3dgt	1 kΩ			
40 MΩ	±7.0%rdg±3dgt	10 kΩ	≤50nA		

4. 導通検査 (→)				
レンジ	ブザー抵抗	分解力	開放電圧	過負荷保護
400 Ω	約60Ω以下	100 MΩ	≒0.44V	300V rms 1分間

5. ダイオードテスト (→)				
レンジ	測定確度	試験電流	開放電圧	過負荷保護
1 V	±5.0%rdg±3dgt	≤0.7mA	≤1.7V	300V rms

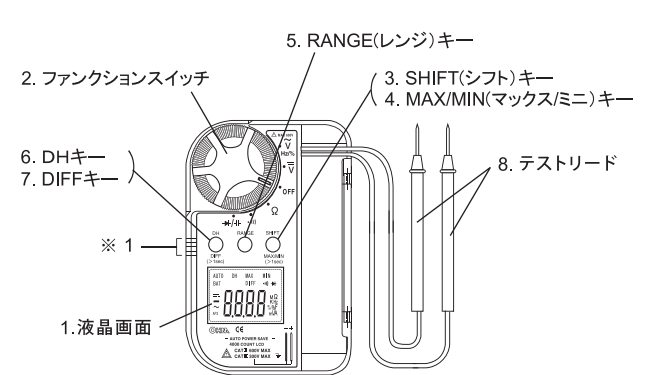
6. 静電容量 (⇨)				
レンジ	測定確度	分解力	試験電圧	過負荷保護
50 nF	±5.0%rdg±10dgt	10pF	≤1.7V	300V rms 1分間
500 nF		100pF		
5 μF		1nF		
50 μF		10nF		
100 μF		100nF		

7. 周波数 (Hz)				
レンジ	測定精度	分解力	入力感度	最大許容値
1 Hz ～100kHz	±0.2%rdg±2dgt	0.001Hz ～100Hz	10kHz以下：3Vrms 10kHz以上：規定せず	300V rms

8. デューティー比 (%)				
レンジ	測定精度	分解力	入力感度	最大許容値
0%～99.9%	±0.5%rdg±5dgt	0.1%	3V rms	300V rms

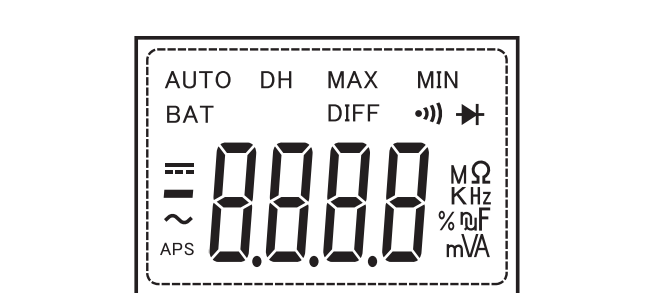
周波数範囲：1Hz～1kHz

3. 各部の名称と説明



※1 ケースカバーを開ける時は、ここを押して下さい。

1. 液晶画面



- AUTO：オートレンジ
- BAT：電池消耗時に点灯
- \equiv ：DC(直流のサイン)
- ：極性がマイナス（+サインは表示されません）
- ～：AC(交流のサイン)
- APS：オートパワーセーブ
- DH：表示固定（ディスプレイホールド）
- MAX/MIN：最大値、最小値
- DIFF：偏差測定
- \rightarrow ：導通検査
- \rightarrow ：ダイオードテスト
- MΩ、kΩ、Ω：抵抗測定の単位
- Hz、kHz：周波数
- %：デューティー比
- nF、μF：静電容量の単位
- mV、V：電圧測定の単位

2. ファンクションスイッチ

電源及び測定レンジ選択用のスイッチです。OFFから各測定レンジに合わせると、液晶画面が点灯して電源が入ります。測定終了後は、必ずスイッチをOFFにして電源を切ってください。

3. SHIFTキー（機能切換）

このキーを0.5秒以下づつ押すと、各測定要素が次のように切り換わります。

\equiv / \sim V： \rightarrow or \rightarrow → Hz → % → \rightarrow or \rightarrow
 \rightarrow / \rightarrow ： \rightarrow → \rightarrow → \rightarrow →

4. MAX/MINキー

\equiv V、 \sim V、Ωの時に、このキーを1秒以上押すと、液晶画面上にMAX、MINが表示され、最大値/最小値が測定できます。ただし、レンジは固定されます。

このキーを0.5秒以下押す度に、MAX MIN→MAX→MIN→MAX MIN...と変化します。このキーを1秒以上押すと、MAX MINサインが消えて、この機能が解除されます。

5. RANGEキー

交流、直流電圧、抵抗測定のとときに、このキーを押すと、AUTOサインが消えてレンジが固定されます。

- 必要とするレンジを選択するには、次の3つの方法があります。
- 測定していない状態で、レンジキーを何度か押して、小数点の位置を見て、必要なレンジを選びます。
 - オートレンジで測定しているときにレンジキーを押します。そのときの測定値に見合ったレンジが固定されます。
 - レンジホールドからオートレンジに戻すには、レンジキーを1秒以上押すか、またはファンクションスイッチを動かして再度設定します。オートレンジに戻ると、AUTOサインが再び点灯します。

6. DH(ディスプレイホールド、表示固定)キー

このキーを(0.5秒以下)押すと、DHが点灯して測定値が固定されます。もう一度押すと解除されます。

7. DIFFキー

- a：偏差測定**
 偏差測定：Hz、%以外の測定中に、このキーを1秒以上押すと、DIFFが点灯し、そのときの測定値(入力値)Xoを記憶し、0±1デジット以下を表示します。そのあとの測定値Xnは、基準値Xoからの偏差値(Xn-Xo)として表示されます。

- b：ゼロ調整 (DIFFと同じ機能)**
 ⇨ (静電容量)測定時にゼロを表示しないときは、ゼロ調整のために使います。
 このキーを1秒以上押すと、DIFFサインが消えて、この機能が解除されます。

8. テストリード

黒色及び赤色 テストリードを、測定しようとする電源、回路等に接続して測定します。一般に、黒色テストリードを⊖側、赤色テストリードを⊕側として使用します。

9. ケースカバーとテストリード

使用後は、テストリードを本体に対して縦巻きにしたあと、保護カバーにテストリードを差し込むときれいにかたづけることができます。
 なお、テストリードがケースの巻き取り部分からはみ出している状態で、無理にケースカバーを締めると、ケースカバーが外れることがあります。

4. 安全測定と使用上のご注意

4-1. 電気事故の防止

人体への感電事故防止とテスターの焼損を防ぐために、次の内容をよく理解し厳守して、安全な測定をしてください。

⚠ 警告

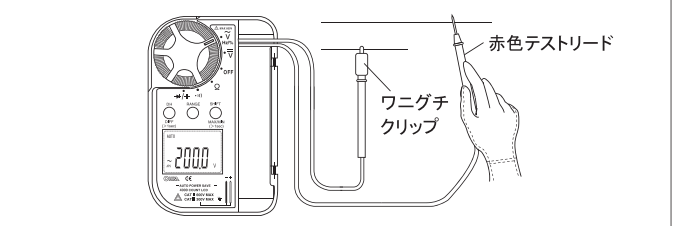
- 本体とテストリードのチェック**
測定前に本体ケースに割れやぬれがないか点検のうえ、常にきれいに乾いた状態でご使用ください。テストリードに断線や絶縁不良がないか十分に確認してください。
- 強電回路の測定は禁止**
強電回路(大型モーター、配電用トランス、ブスバーなどへの電気容量の大きい工場内外の動力線など)は測定しないでください。強電回路には高サージ電圧が重畳している可能性があり、爆発的短絡の誘因となります。一般的には、交流電圧30V、直流電圧42.4Vを超える電路で、その電路からアースへ流れる電流が0.5mAを超えると感電事故を起こす危険があります。
- 弱電の高電圧回路測定について**
弱電回路(家電製品や電子機器の回路で電気容量の小さい回路)でも、高電圧回路(100V以上)は危険です。感電のおそれがあるため活線部分には触れないよう十分ご注意ください。

■弱電の高電圧回路の測定手順の厳守

- 測定の際は、次の手順を守り安全な測定をしてください。
- ①測定の前に、測定回路の電源をOFFにします。
 - ②ファンクションスイッチを回して、本体の電源をONにします。
 - ③赤・黒テストリード先端にワニグチクリップ(別売)を付けます。
 - ④測定回路の電源がOFFであることを確認してから、アース ⊖ 側に黒色ワニグチクリップ、高電位 ⊕ 側に赤色ワニグチクリップをはさんで接続します。
 - ⑤本体は手に持たず、安定した所に置きます。測定回路に手や身体、テストリードなどが触れないように十分な距離をとります。
 - ⑥測定回路の電源をONにします。液晶表示の測定値を読み取ります。
 - ⑦測定回路の電源をOFFにします。測定回路から赤・黒のワニグチクリップ(テストリード)を外します。

■やむを得ず活線(電圧のかかっている回路)を測定する場合は、下記の手順を厳守してください。

- ①絶縁手袋を着用します。
- ②本体は手に持たず、安定した所に置きます。
- ③ファンクションスイッチを回して、本体の電源をONにします。
- ④黒色テストリード先端に黒色ワニグチクリップ(別売)を付け、測定回路のアース⊖側にはさんで接続します。
- ⑤測定回路に手や身体、テストリードなどが触れないように十分な距離をとります。
- ⑥赤色テストリードを片手に持って、測定回路の高電位 ⊕ 側に接触させます。
- ⑦液晶画面の測定値を読み取ります。
- ⑧測定が終わったら赤色テストリードを測定回路から外し、次に黒色ワニグチクリップ(テストリード)を外します。



4-2. テスターの故障防止

⚠ 警告

- ファンクションスイッチの設定**
測定時にはファンクションスイッチが正しく設定されているか確認してください。特にΩ(抵抗)、ダイオードテスト(→)、導通(→)が選択された状態で電圧を測定しないでください。
- 最大許容入力値の厳守**
測定仕様に記載の最大許容値を超えた測定をしないでください。
- テストリード先端の接触を外してから行うこと**
測定項目を変更する際、電池交換で裏ぶたを開ける際は、必ずテストリード先端と測定回路との接触を外してください。

4-3. 取り扱い上のご注意

⚠ 警告

- 電気測定の知識と経験のない人、子供には使用させないでください。
- 裸足や上半身裸で使用しないでください。感電事故の原因となります。
- 分解や改造はしないでください。
- テストリードの先端は尖っており大変危険です。目などに刺さらないようご注意ください。

⚠ 注意

- 本製品の構造は精密です。強い振動や衝撃を与えず、車中や高温多湿な場所での使用および保管は避けてください。
- 本製品をこすったり、ベンジン、アルコールなどの溶剤で拭かないでください。
- 本製品を長期間使用しない時は電池を取り外してください。消耗した電池を内蔵したまま放置すると、電解液が漏出して内部を腐食することがあります。
- 液晶画面を指で押したり、尖った物で刺したりしないでください。破損の原因となります。

5. 測定方法

5-1. 測定準備

1. 取扱説明書の精読

このテスターの測定仕様及び機能を正しく理解してください。特に、「4.安全測定と使用上のご注意」の項をよく読んで安全な測定をしてください。

2. 電池

このテスターには3V CR2032ボタン電池1個が内蔵されています。電池電圧が約2.4V以下になると、液晶画面に「BAT」サインが点灯します。このときは、「6-1.電池の交換」を参照して電池を交換してください。

3. テストリード

黒色および赤色テストリードをケースより取り出して、測定しようとする電源、回路等に接続して測定します。一般に、黒色のテストリードを⊖側、赤色のテストリードを⊕側として使用しています。

⚠注意: テストリードをしまう場合、リード線を本体に巻いてしまいます。テストリードがケースの巻き取り部分からはみ出している状態で、無理にフロントカバーをしめると、フロントカバーが外れることがあります。

4. オーバーレンジ表示

各レンジ(電気要素)の測定において、使用レンジの最大値(3999デジット)を超える入力があると、OLサインが点灯します。ただし、DC/AC 600Vレンジでは表示しないので、入力オーバーしないようご注意ください。

5. オートパワーオフ

ファンクションスイッチ、DHキ、またはRANGEキーの操作後、約15分経つと、自動的に表示が消えて電池の消耗を防ぎます。しかし、この状態で電池は0.01mW消費しています。測定が終わりましたら、必ずファンクションスイッチをOFFにしてください。15分以上の長時間測定をする場合は、シフトキーを押しながら電源をONにします。またはMAX/MINキーを押して測定します。この場合、オートパワーセーブ機能は解除され、ASPサインは消えています。

6. シンボルマーク

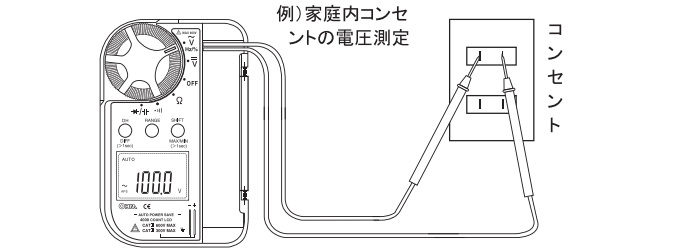
このテスターまたは取扱説明書に表示されている次のシンボルは、国際規格のIEC-61010-1及びISO3864に規定されている記号です。

	警告又は注意記号で「説明書を良く読んでください。」ということを表しています。		
	交流 (AC)		アース (グラウンド)
	直流 (DC)		二重絶縁

5-2. 交流電圧 (Ṽ → Hz → %) の測定

⚠ 警告	
交流電圧の最大測定値は600Vです。感電事故並びにテスターの損傷を防ぐために、600Vを超える電圧を測定しないでください。600V以下でも、電気容量が6kVA以上の強電回路は危険ですので、測定しないでください。「4.安全測定と使用上のご注意」をよく読み、感電事故とテスターの損傷を防止して、安全な測定をしてください。	

- ファンクションスイッチを に合わせます。「」サインが液晶画面に表示されます。
注: この時入力がないのに、意味のない数字が表示されるのはテスターの内部抵抗が高く、ノイズを拾ってしまうためにおこる現象で、故障ではありません。
- 測定しようとする回路の極性を確かめて、⊖側に黒色 テストリードを、⊕側に赤色テストリードを接続します。
注: 電圧測定の場合、テスターを回路(電源)と「並列」に接続します。
注: 危険性がある回路では、テストリードの先にワニグチクリップ(別売)を付けて回路に接続すると安全に測定できます。
- 測定値を液晶画面上で読み取ります。
- SHIFTキーを押すと、Hz、%の測定ができます。必要に応じて、DHキー、DIFFキー、RANGEキー、MAX/MINキーが使えます。
- 測定が終わりましたら、赤黒のテストリードを測定回路から外し、ファンクションスイッチをOFFにします。

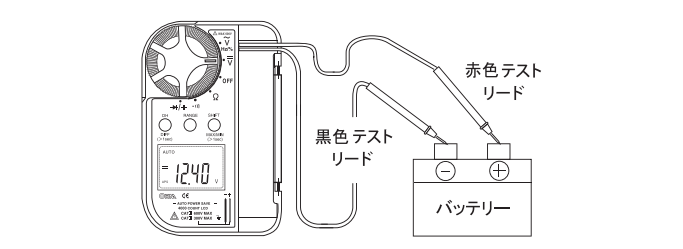


6

5-3. 直流電圧 (V̄ → Hz → %) の測定

⚠ 警告	
直流電圧の最大測定値は600Vです。感電事故並びにテスターの損傷を防ぐために、600Vを超える電圧を測定しないでください。600V以下でも、電気容量が6kVA以上の強電回路は危険ですので、測定しないでください。「4.安全測定と使用上のご注意」をよく読み、感電事故とテスターの損傷を防止して、安全な測定をしてください。	

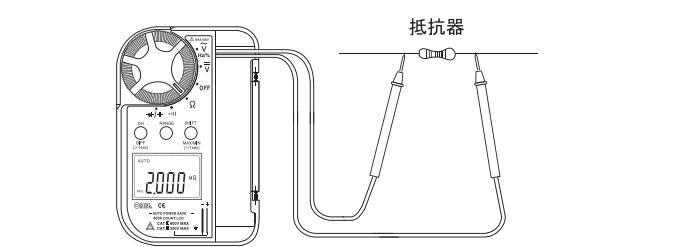
- ファンクションスイッチを に合わせます。「」サインが液晶画面に表示されます。
注: この時入力がないのに、意味のない数字が表示されるのはテスターの内部抵抗が高く、ノイズを拾ってしまうためにおこる現象で、故障ではありません。
- 測定しようとする回路の極性を確かめて、⊖側に黒色テストリードを、⊕側に赤色テストリードを接続します。
注: 電圧測定の場合、テスターを回路(電源)と「並列」に接続します。
注: 危険性がある回路では、テストリードの先にワニグチクリップ(別売)を付けて回路に接続すると安全に測定できます。
- 測定値を液晶画面上で読み取ります。
- SHIFTキーを押すと、Hz、%の測定ができます。必要に応じて、DHキー、DIFFキー、RANGEキー、MAX/MINキーが使えます。
- 測定が終わりましたら、赤黒のテストリードを測定回路から外し、ファンクションスイッチをOFFにします。



5-4. 抵抗 (Ω) の測定

⚠ 警告	
抵抗(Ω)レンジでは、間違っって電圧を測定しないでください。感電事故やテスターの損傷につながるおそれがあります。管路の内部に接続している抵抗器を測定する場合には、必ず回路の電源を切り、回路内のコンデンサーを放電させてから測定してください。測定の前には、必ず「4.安全測定と使用上のご注意」をよく読んでください。	

- ファンクションスイッチを に合わせます。「O.L M Ω」サインが液晶画面に表示されます。
- 測定する抵抗器が回路に接続している時は、回路の電源を切り、回路内のコンデンサーを放電した後、抵抗器の片側を外します。
- 測定する回路、または抵抗器の両端にテストリードを接続します。
- 液晶画面に表示された測定値を読み取ります。
- 必要に応じて、DHキー、DIFFキー、RANGEキー、MAX/MINキーが使えます。
- 測定が終わりましたら、ファンクションスイッチをOFFにします。

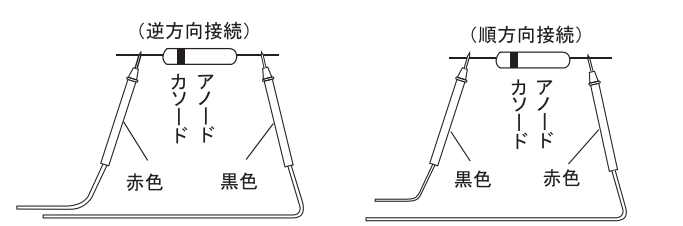


5-5. ダイオードテスト (→▶)

⚠ 警告	
ダイオードテスト(→▶)では、間違っって電圧測定しないでください。感電事故やテスターの焼損につながるおそれがあります。回路の内部に接続しているダイオードをテストする場合には、必ず回路の電源を切り、コンデンサーを放電させて、回路からダイオードの片側を外してテストします。	

7

- ファンクションスイッチを に合わせます。「OL →▶」サインが液晶画面に表示されます。
- 測定するダイオードが回路に接続している時は、回路の電源を切り、回路内のコンデンサーを放電した後、ダイオードの片側を外します。
- 黒色テストリードをダイオードのアノード側に、赤色テストリードをカソード側に接続します。(逆方向接続)。液晶画面に「OL」と表示していることを確認します。
- テストリードを3.と逆に接続します(順方向接続)。このとき、液晶画面に以下の数値を表示すれば正常です。
・シリコンダイオード・・・0.4V~0.7V
・ゲルマニウムダイオード・・・0.1V~0.4V
- ダイオードテスト終了後は、ファンクションスイッチをOFFにします。
注: 発光ダイオードのテストはできません。



5-6. 導通検査 (→●)

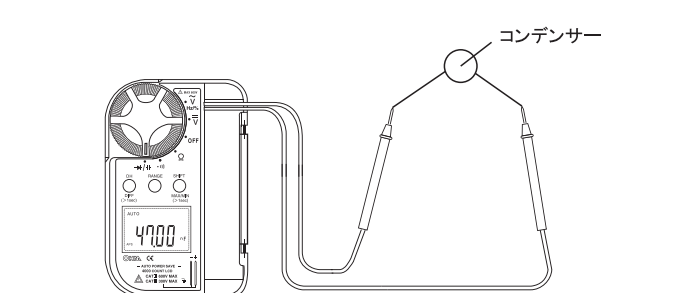
⚠ 警告	
導通検査(→●)では間違っって電圧を測定しないでください。感電事故やテスターの焼損につながるおそれがあります。回路内の導通を検査するときには、必ず回路の電源を切り、コンデンサーを放電させてから検査してください。	

- ファンクションスイッチを に合わせます。「→●」サインが液晶画面に表示されます。
- 測定する回路の両端にテストリードを当てます。
コードの断線を調べる場合は、コード先端のプラグとソケットの同じ側の線にテストリードを当てます。
- 抵抗値が約60Ω以下なら液晶画面に抵抗値を表示し、導通を知らせるブザーが鳴ります。
- ブザーが鳴らない時は、断線、または抵抗値が60Ω超えの時です。
- 測定終了後は、ファンクションスイッチをOFFにします。

5-7. 静電容量 (H) の測定

⚠ 警告	
静電容量(H)レンジでは、間違っって電圧を測定しないでください。感電事故やテスターの損傷につながるおそれがあります。管路の内部に接続している抵抗器を測定する場合には、必ず回路の電源を切り、回路内のコンデンサーを放電させてから測定してください。測定の前には、必ず「4.安全測定と使用上のご注意」をよく読んでください。	

- ファンクションスイッチを に合わせます。「OL →▶ V」サインが液晶画面に表示されます。
- SHIFTキーを1度押し、液晶画面上に0.000nFを点灯させます。表示が0.000nF±3nF以下にならないときには、DIFFキーを1秒以上押しします。
- 測定しようとするコンデンサーを放電させます。
- 測定しようとするコンデンサーの片側を回路から外して、テストリードを接続します。
- 測定値を液晶画面上で読み取ります。
- 必要に応じて、DHキー、DIFFキーが使えます。
- 測定終了後は、ファンクションスイッチをOFFにします。



注: 静電容量が大きくなると測定時間が長くなります。

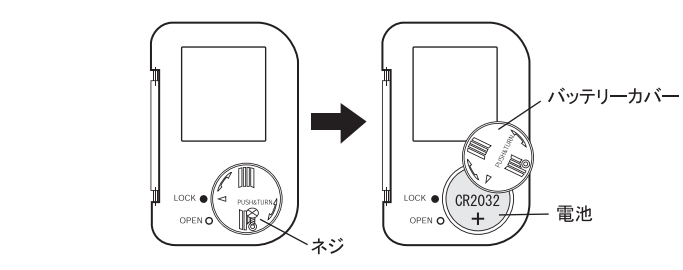
8

6. 保守管理

6-1. 電池の交換

⚠ 警告	
電器事故防止のため、測定を終了し、テストリードを測定回路から外してから電池を交換してください。ファンクションスイッチは必ずOFFにしてください。	

- 使用している電池が消耗すると、液晶画面に「BAT」サインが点灯します。この時には次の手順で電池を交換してください。
- 測定を終了し、テストリードを測定回路から外して、テスターの電源をOFFにします。
 - 本体裏側のネジを外し、裏ぶたを外します。
 - 新しい3V CR2032ボタン電池1個を⊕(プラス)側を上にして入れます。
注: 電池は規格にあったものを使用してください。
 - 裏ぶたを閉じて、ネジを締めます。



※製品内蔵の電池は動作確認用電池です。
新品に比べて早く消耗することがありますのでご了承ください。

6-2. 修理

本製品が正常な動作をせず修理を依頼される場合には、事前に次の点検をして故障を確認してください。

- 電池が接触不良となっていないか。
電池の極性が間違っって設置されていないか。
- 電池が消耗していないか。
(消耗すると液晶画面にBATが点灯します。)
- 測定入力が本製品の規定レンジ以内であるか。
- 使用環境内における測定精度であるか。
- 本体にひび、割れなど損傷がないか。

以上の点検を通して故障であることが確認できましたら、修理を依頼してください。

⚠ 警告	
■直射日光が当たる場所や暖房器具のすぐそばなど異常に温度が高くなる場所に放置しない。 ■長期間この機器を使用しないときは、本体から電池を取り出す。 ■電池を機器内に挿入する場合、極性表示(⊕と⊖の向き)に注意し表示どおりに正しく入れる。使用推奨期限内の電池を使用する。 ■電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れない。 ■電池は、金属製のボールペン、ネックレス、コイン、ヘアピンなどと一緒に携帯、保管しない。 ■乳幼児の近くや手の届く場所に置かない。万一、電池を飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談する。 ■電池の液が皮膚や衣服についたらきれいな水で洗い流す。万一、目に入った場合はすぐにきれいな水で洗い流し、医師の診察を受けてください。	

9

保証書

持込修理 無料修理規定

- 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った使用状態で、保証期間内に故障した場合のみ無料修理いたします。
- 保証期間内でも次の場合には有料修理となります。
(イ) 使用上の誤り、または、自己修理、分解、調整、改造等による故障及び損傷
(ロ) お買上げ後の輸送、移動、落下等による故障及び損傷
(ハ) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧、水掛り等による故障及び損傷
(ニ) 消耗または摩耗した部品、付属品の交換
(ホ) 本書のご提示がない場合
(ヘ) 本書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは文字を書きかえられた場合(但し、販売店シールや領収証でも未記入項目の代用となります。)
- (ト) 本品本来の用途以外に使用された場合の故障及び損傷
(チ) 一般家庭用以外(例:業務用、または業務用に準ずる使用方法)で使用された場合の故障及び損傷
- ご贈答、ご転居等で本保証書に記入のお買上げ販売店に修理をご依頼になれない場合は、弊社修理ご相談センターにお問い合わせください。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.
- 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。

商品名	デジタルマルチテスター	★お買上げ日:	年 月 日
型番	TDB-401B	品番	06-540B
		保証期間:	本体1年間(お買上げの日から)
お客様	★お名前	様	
	★ご住所 〒	-	
		電話	()
修理メモ			
★住所 店名 電話			
販売店			

(注) ★印欄に記入のない場合は無効となりますので、必ずご確認ください。

※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。
※この保証書によって保証書を発行している者(保証責任者)、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
※保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買上げの販売店または弊社修理ご相談センターにお問い合わせください。
※お客様にご記入いただいた保証書の内容は、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のために記載内容を利用していただく場合がありますので、ご了承ください。

株式会社 オーム電機
〒342-8502 埼玉県吉川市旭3-8
<https://www.ohm-electric.co.jp>

製品に関するお問い合わせは お客様相談室へ	
●電話料無料	●携帯・IP・公共電話からは
0120-963-006 048-992-2735	
電話受付	平日 9:00~17:00 ※土曜・日曜・祝日及び年末年始は休みます
修理に関するご相談は 修理ご相談センターへ	
電話受付	048-992-3970 平日 9:00~17:00 ※土曜・日曜・祝日及び年末年始は休みます

10